

:: 指定管理者制度導入施設 モニタリング・シート ::

評価年月日: 平成30年7月24日

| 1 基本事項 | |
|-----------|---|
| 公の施設の名称 | 相模原球場 |
| 指定管理者の名称 | 淵野辺公園グループ運営共同企業体 |
| 指定期間 | 平成26年4月1日から平成31年3月31日まで(5年間) |
| 施設設置条例の名称 | 相模原市立相模原球場条例 |
| 施設の設置目的 | スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、市民の健康で文化的な生活の向上に寄与すること。 |
| 施設概要 | 所在地:中央区弥栄3丁目1番6号(淵野辺公園内) 開設年月:昭和62年4月 敷地面積:26,800㎡ 延床面積:12,610㎡ グラウンド:14,612㎡ 両翼95m 中堅120m 収容人員(内野観覧席8,064人 外野観覧席8,000人) スコアボード...電光表示式 照明塔...6基 主要施設 諸室(本部室、記者室、放送室、記録室、審判員室、審判員控室、警備員室、管理室、カメラマン室)、体育室、屋内練習場、事務室、役員室、会議室、選手用更衣室、選手用控室等 |
| 施設所管課の名称 | 教育局 生涯学習部 スポーツ課 |

| 2 管理実績 | | | | | | |
|--------------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|--------|
| 項目(単位) | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
| グラウンド 利用件数合計(件) | 527 | 627 | 699 | 865 | 859 | |
| グラウンド 来場者数合計(人) | 67,922 | 57,661 | 77,188 | 81,310 | 88,537 | |
| 体育室 専用利用件数合計(件) | 345 | 342 | 360 | 360 | 357 | |
| 体育室 一般利用者数合計(人) | 9,171 | 9,321 | 8,643 | 9,810 | 9,442 | |
| 利用料金収入(円) | 7,552,335 | 9,488,675 | 8,912,170 | 12,625,645 | 13,839,495 | |

| 3 成果指標の達成度 | |
|------------|---|
| 指標名(単位) | 相模原球場グラウンド利用件数(件) 相模原球場グラウンド来場者数(人) 相模原球場体育室専用利用件数(件) 相模原球場体育室一般利用者数(人) |
| 指標式と指標の説明 | 達成度 = 実績件数(又は人数) ÷ 目標件数(又は人数) × 100 実績件数は1コマ(2時間)を1件としてカウントする。 平成26年度の目標値は、東日本大震災等の影響に鑑み、平成24年度の利用件数(又は人数)を基に設定した。なお、平成27年度以降の目標数値は、前年度までの実績を基に市と協議の上、指定管理者が自主的に設定することができる。 |

| 項目 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|--------|--------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 目標値(件) | - | 600 | 600 | 600 | 600 | |
| 実績値(件) | 527 | 627 | 699 | 865 | 859 | |
| 達成度(%) | - | 104.5% | 116.5% | 144.2% | 143.2% | |
| 目標値(人) | - | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | |
| 実績値(人) | 67,922 | 57,661 | 77,188 | 81,310 | 88,537 | |
| 達成度(%) | - | 57.7% | 77.2% | 81.3% | 88.5% | |

| | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 目標値(件) | 300 | 300 | 300 | 300 | 300 | |
| 実績値(件) | 345 | 342 | 360 | 360 | 357 | |
| 達成度(%) | 115.0% | 114.0% | 120.0% | 120.0% | 119.0% | |
| 目標値(人) | 8,500 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | |
| 実績値(人) | 9,171 | 9,321 | 8,643 | 9,810 | 9,442 | |
| 達成度(%) | 107.9% | 116.5% | 108.0% | 122.6% | 118.0% | |

| 4 評価 | | |
|-------------|----|--|
| 指標名 | 評価 | コメント |
| 施設の設置目的の達成度 | A | 「グラウンド利用件数」、「体育室専用利用件数」、「体育室一般利用者数」は目標値を上回った。「グラウンド来場者数」については目標値には届かなかったが、前年実績を上回った。 |
| 事業・業務の履行状況 | A | 日頃から内野グラウンド及び芝生について質の高い管理が継続できていることが、新たに大学野球大会の会場選定にも繋がったものと評価している。その一方で、事業展開については、応募がなかった事業もあり、実施内容や広報手法等に改善の余地が見られる。 |
| 利用者満足度の向上度 | B | 目標値90.0%に対して、結果が1回目92.9%、2回目85.5%となり、一部目標値を下回った。各々の調査対象に偏りが見受けられることもあり、調査時期や調査対象については改善の余地がある。 |
| 財務状況の適正性 | B | 人件費や光熱水費が増加し、グループ全体で1,000万円の赤字となった。当初見込んでいた事業収入を大きく下回り、収支計画の適正という点で課題が見受けられた。 この項目はグループ全体の収支状況の評価する。 |

【施設の設置目的の達成度】の評価基準

モニタリングシート(3 成果指標の達成度)における“達成度”の内容について、次の基準により評価する。

- S: 当該年度の達成度が110%以上
- A: 当該年度の達成度が100%以上110%未満
- B: 当該年度の達成度が90%以上100%未満
- C: 当該年度の達成度が80%以上90%未満
- D: 当該年度の達成度が80%未満

【事業・業務の履行状況】の評価基準

モニタリング基礎シート(様式1)における“評価”の内容について、次の基準により評価する。

- S: 全ての評価項目に「A」もしくは「B」が付き、「C」の数が評価項目の総数の3分の2以上である。
- A: 全ての評価項目に「B」もしくは「C」が付き、「D」の数が評価項目の総数の3分の2未満である。
- B: 全ての評価項目が「C」である。
- C: 「A」と「B」のどちらもつかない項目が1つある。
- D: 「A」と「B」のどちらもつかない項目が2以上ある。

【利用者満足度の向上度】の評価基準

モニタリング基礎シート(様式2)における“達成度”の内容について、次の基準により評価する。

- S:当該年度の達成度が110%以上
- A:当該年度の達成度が100%以上110%未満
- B:当該年度の達成度が90%以上100%未満
- C:当該年度の達成度が80%以上90%未満
- D:当該年度の達成度が80%未満

【財務状況の適正性】の評価基準

モニタリング基礎シート(様式3)における“3 指定管理者の団体本体の経営状況”の内容について、次の基準により評価する。

- S:評価対象年度の決算において、収入が支出を上回っており、かつ選考委員会による意見として本体の経営状況に「特段の課題はない」とされた場合
 - A:評価対象年度の決算において、本社等からの繰入れを行っておらず(収支が一致している。予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、選考委員会による意見として本体の経営状況に「特段の課題はない」とされた場合
 - B:評価対象年度の決算において、本社等からの繰入れを行っているが(予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、選考委員会による意見として本体の経営状況に「特段の課題はない」とされた場合
 - C:評価対象年度の決算において、本社等から繰入れを行っている(予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、または選考委員会による意見として本体の経営状況に「若干の懸念がある」とされた場合
 - D:評価対象年度の決算において、本社等から繰入れを行って(予定外の自主事業等へ対応した場合を除く)、選考委員会による意見として本体の経営状況に「重大な懸念がある」とされた場合
- 「財務状況の適正性」の項目については、グループ全体としての評価とする。(複数の施設をグルーピングしている場合のみ)

客観的評価として以上の基準によりS～Dを判定し、選考委員会の意見を踏まえて調整することも可能とする。

5 施設所管課による総合評価

| | |
|------|---|
| コメント | <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度開催の大学野球リーグ戦での利用が継続して行われるなど、グラウンドの専用利用件数が前年度を上回る実績を維持できた結果となったことは、レベルの高い大会を実施するに値する良好な施設のコンディション管理を日常的に継続してきた成果であると評価している。 ・新たな試みとして、東日本大震災復興支援チャリティーマッチと称した国内外のプロ野球選手による試合と連動した子どもへの野球教室の実施等、教育機関として施設の設置目的に沿う事業について成果が得られた。 ・今後も様々な事業を通じ、利用者のニーズ等の把握に一層努めていただき、教育機関としてスポーツ振興に寄与した事業の拡大や展開に期待している。 |
|------|---|

6 指定管理者選考委員会による評価

| | |
|-------|---|
| 評価実施日 | 平成30年7月24日 |
| コメント | <p>グループ全体として赤字となったが、これまでも専門性やノウハウを活かし積極的な管理運営を展開してきており、利用者サービスの質を維持したまま、いかに業績回復を図るか、指定管理者の手腕に期待したい。</p> <p>この項目はグループ全体について評価する。</p> |